

# 区内有数の彫刻美

所在地：舎人 5-21 舎人氷川神社 (本殿はフェンスで保護されています)



## とねりひかわじんじやほんでん 舎人氷川神社本殿

舎人氷川神社の創建は古く、鎌倉時代初期の正治2年(1200)に、大宮(埼玉県さいたま市)の氷川神社を勧請(分霊を招くこと)したものと伝えられています。江戸時代、舎人は赤山街道の宿場として栄え、「ごぼうの市」に代表される市場町としてもにぎわいました。

現在の社殿は、天保7年(1836)の建築です。この社殿の特徴は、なんとといっても一面に施された彫刻美にあります。作者は立川重蔵と伝わりますが、詳しいことはわかっていません。

昇龍や降龍、唐獅子、牡丹などのほか、八岐大蛇退治、天の岩戸開き、天孫降臨といった日本古来の神話の様子が浮彫にされています。こうした見事な彫刻は、宿場や市場として栄えた舎人の繁栄ぶりを示しています。



作者渾身の力作と評される左柱上部の龍

### 文化財豆知識

#### 舎人の人々の篤い信仰心ーフェンス越しに見る文化財ー

舎人氷川神社本殿は、フェンスで保護されており、残念ながらフェンス越しでは本殿を見ることはできません。しかし、このフェンスも戦前につくられた古いもので、舎人地域の人々がいかに本殿を大切にしてきたかを物語ります。そうした背景を知っていると、一見邪魔に思えるフェンスも、大切なものと見えてきませんか？

